



セブン&アイ・ホールディングス 『IR Day 2024 Autumn』

ESG戦略(サステナビリティ)

2024.10.24

目次

1 当グループのサステナビリティ推進体制

2 環境戦略

- 「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗
- 4つのテーマの具体的な取り組み
- TNFDの開示

3 社会戦略及びコミュニケーション戦略

- 人権尊重の取り組み
- 社会貢献活動の進捗と課題、今後の方向性
- グローバル化するコミュニケーション戦略

4 サステナビリティの課題と対応

目次

1 当グループのサステナビリティ推進体制

2 環境戦略

- 「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗
- 4つのテーマの具体的な取り組み
- TNFDの開示

3 社会戦略及びコミュニケーション戦略

- 人権尊重の取り組み
- 社会貢献活動の進捗と課題、今後の方向性
- グローバル化するコミュニケーション戦略

4 サステナビリティの課題と対応

サステナビリティ推進体制：取り組みの振り返り

「CSR」から「サステナビリティ」へ、社会の変化に対応



体制

2011年

- ・CSR統括部発足
- ・第1回CSR統括委員会

2019年

- ・サステナビリティ推進部発足

2020年

- ・役員報酬制度CO₂指標導入

2024年

- ・ヘルプライン
海外通報窓口設置

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 2024年

取り組み

2014年

- ・5つの重点課題を特定

2019年

- ・「GREEN CHALLENGE 2050」を策定

2020年

- ・TCFD開示

2021年

- ・人権方針策定

2022年

- ・7つの重点
課題へ改定

2024年

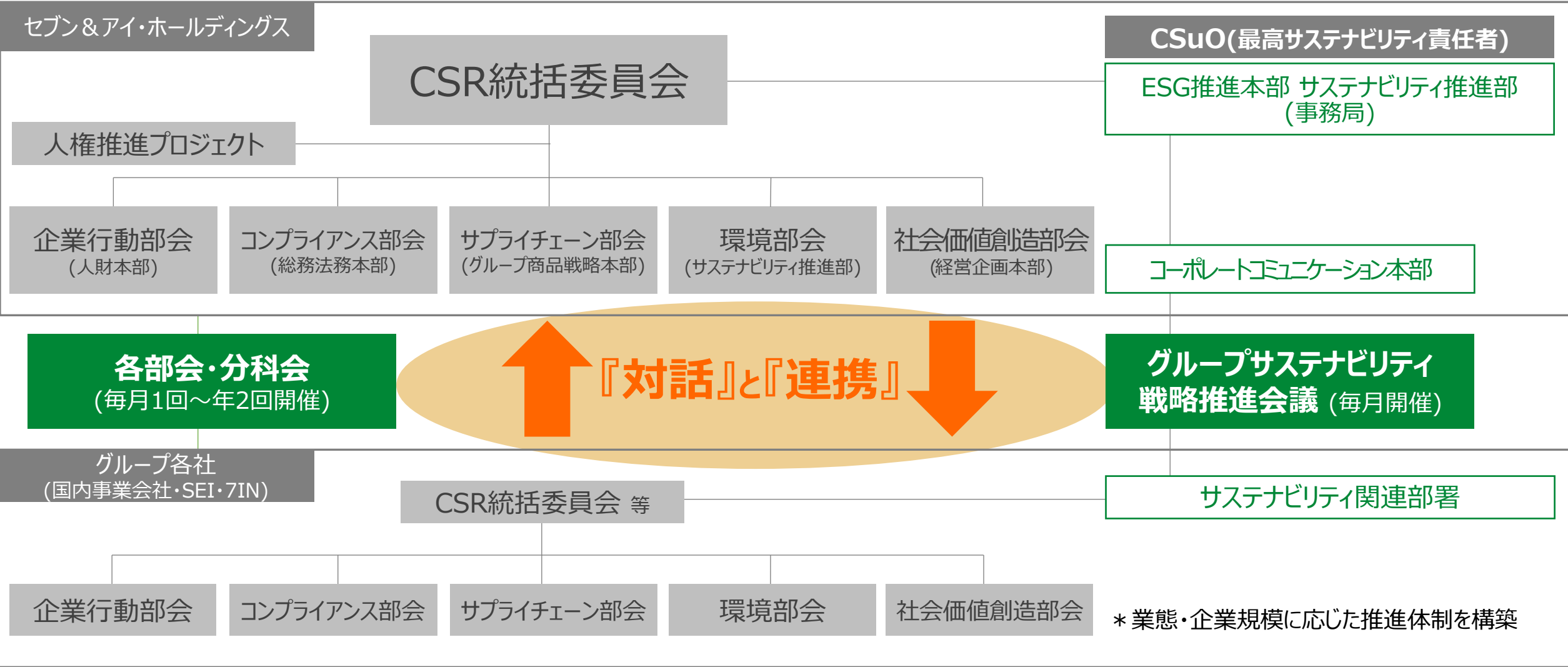
- ・TNFD開示

サステナビリティ推進体制：重点課題（マテリアリティ）

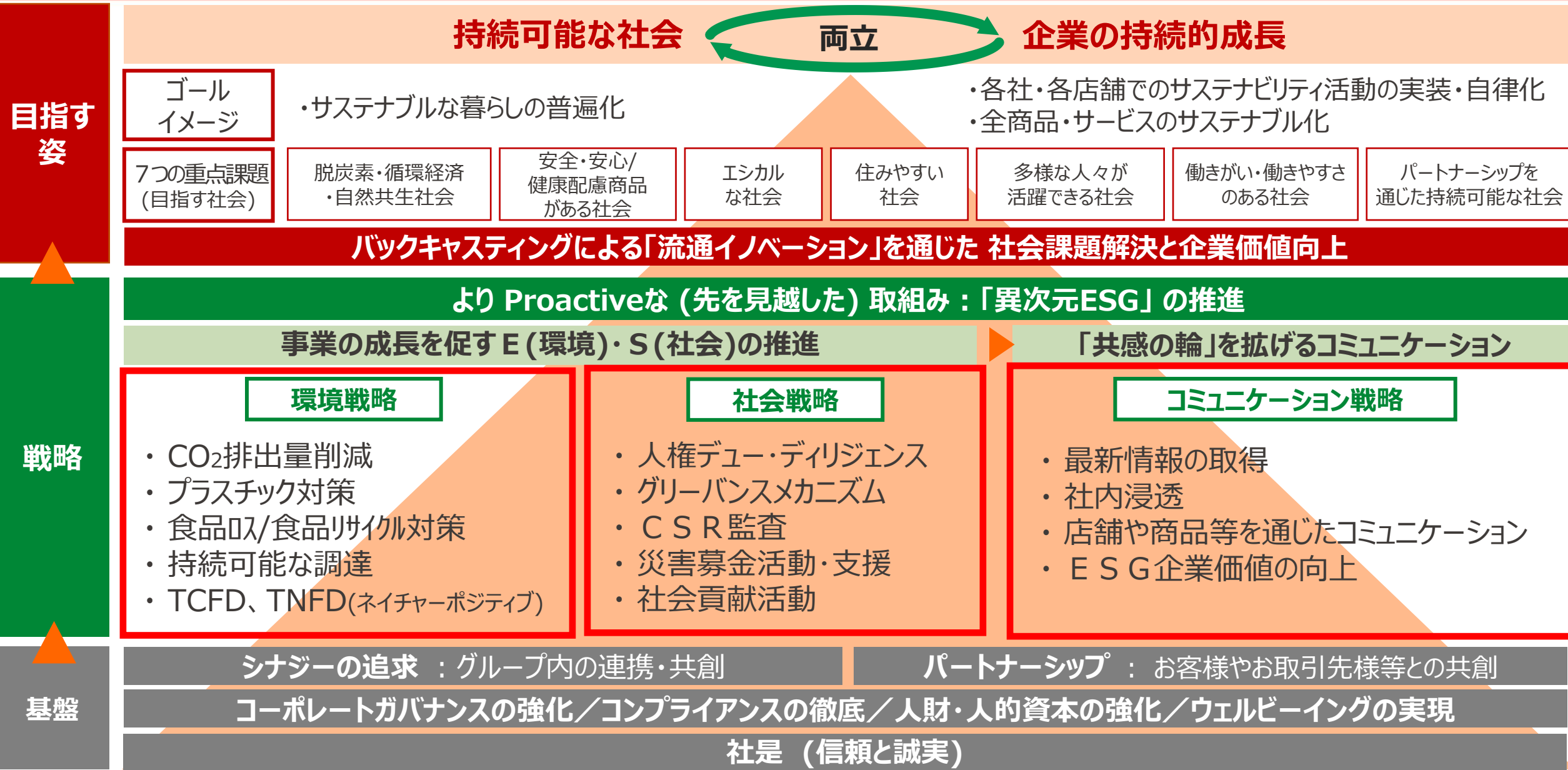
重点課題	関連する具体的な取り組み例
1. お客様とのあらゆる接点を通じて、地域・コミュニティと共に 住みやすい社会を実現する  	1. 地域社会に根差した経営 7NOW、お届けサービス、各種行政サービス
2. 安全・安心で健康に配慮した商品・サービスを提供する  	2. 安全で豊かな社会の実現 健康商品の開発、品質管理体制の強化
3. 地球環境に配慮する、脱炭素・循環経済・自然と共生する社会を実現する       	3. 環境に配慮した経営 環境配慮型店舗の開発、PETボトルリサイクル、食品ロス・リサイクル推進、認証商品の拡大
4. 多様な人々が活躍できる社会を実現する  	4. 色々な価値観・ライフスタイルを認める社会 子育て支援・次世代教育支援、ノーマライゼーション
5. グループ事業を担う人々の働きがい・働きやすさを向上する   	5. やりがいと達成感を得られる会社 に人財育成、障がい者・外国人雇用
6. お客様との対話と協働を通じて エシカルな社会を実現する 	6. お客様と一緒に地域を豊かに てまえどり、フードドライブ、モッテコ(ドギーバッグ)
7. パートナースhipを通じて持続可能な社会を実現する     	7. お取引先様と一緒に豊かな社会を実現 CSR監査、異業種・同業種の協業

サステナビリティ推進体制：グループ各事業会社との連携

CSR統括委員会を中心に、5 部会及び各社サステナビリティ部門との「対話」と「連携」により推進



サステナビリティ推進体制：サステナビリティ戦略マップ



目次

1 当グループのサステナビリティ推進体制

2 環境戦略

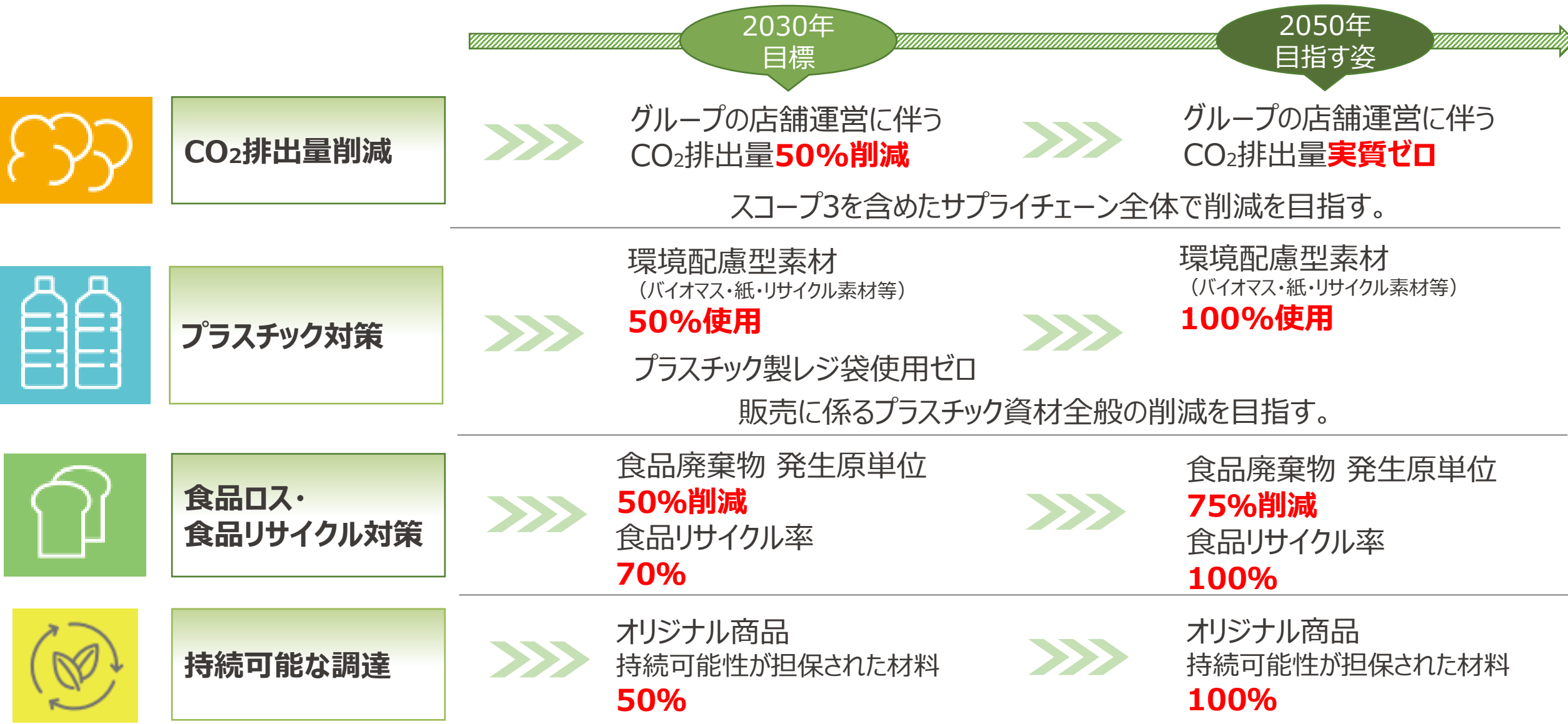
- 「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗
- 4つのテーマの具体的な取り組み
- TNFDの開示

3 社会戦略及びコミュニケーション戦略

- 人権尊重の取り組み
- 社会貢献活動の進捗と課題、今後の方向性
- グローバル化するコミュニケーション戦略

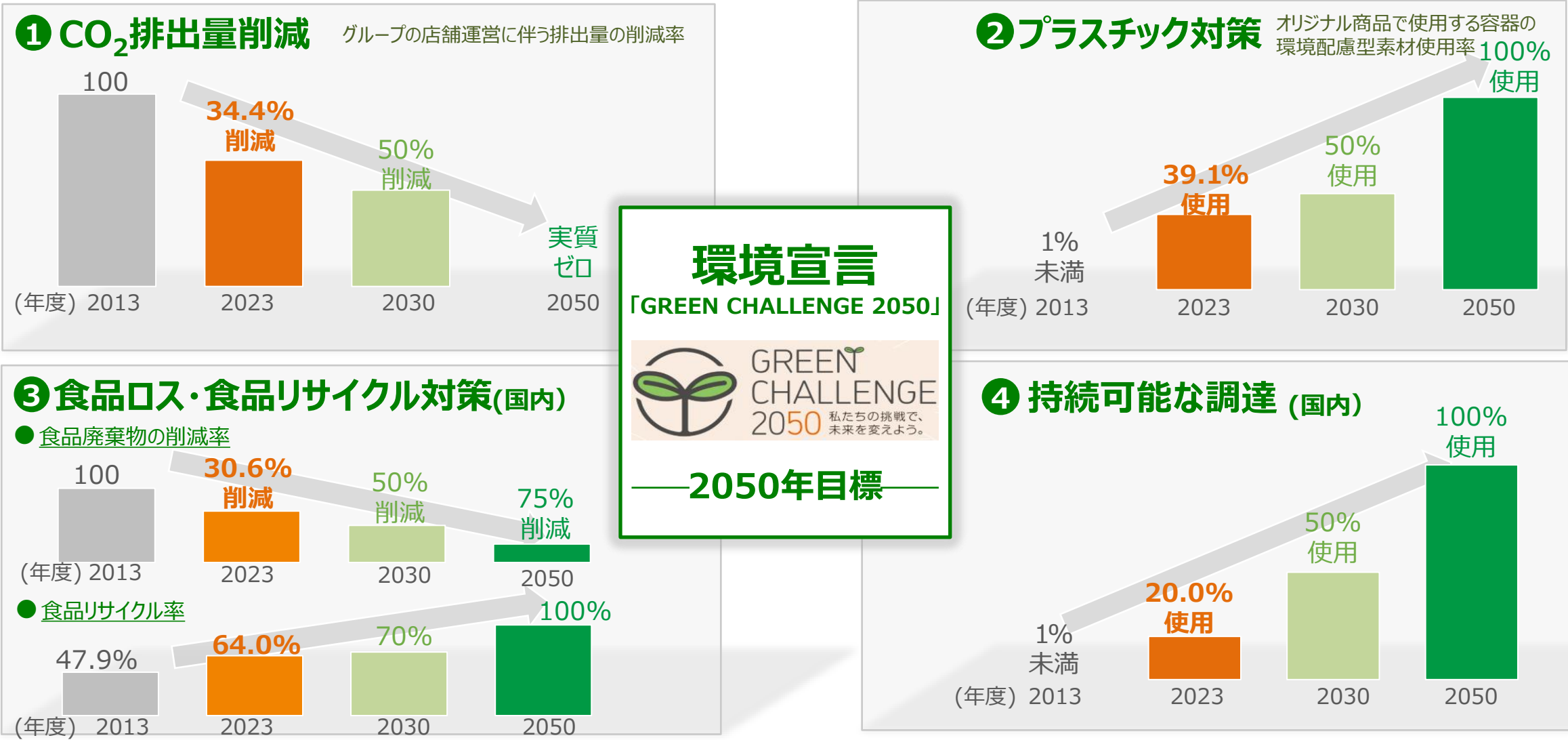
4 サステナビリティの課題と対応

環境戦略：「GREEN CHALLENGE 2050」



環境戦略：「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗状況

環境宣言における2050年までの目標に対し、更に取り組みを強化



CO₂排出量削減

- **太陽光パネル等の創エネ省エネの拡大**
・約9,000店舗にパネルを設置(23年度末)
- **自社新電力会社(セブン&アイ・エナジー・マネジメント)設立**
・小売電気事業者としての事業活動を25年度開始予定
- **蓄電池の利活用を検討**

プラスチック対策

- **ペットボトル回収機の拡大**
・設置台数4,187台、年間約5億本の回収(23年度末)
- **リデュース(発生抑制)や他の素材への変更**
- **廃ペットボトルリサイクル工場への出資・稼働**

食品ロス削減・食品リサイクル対策

- **「エコだ値」(SEJの食品ロス削減の対応)**
・令和6年度食品ロス削減推進表彰 消費者庁長官賞受賞
- **食品残渣のリサイクル拡大**
・競合連携や積替保管の展開開始

持続可能な調達

- **第三者認証取得の拡大**
・農産物のGAP認証や水産物のMSC等の拡大
- **第三者認証だけに頼らない自主基準策定検討**
- **TNFDを24年9月上旬に開示**

自然資本/生物多様性の取り組み、自然資本に関する方針を開示

TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)

20年6月
開示済

気候変動による影響及びリスクと機会の分析・開示

2019年にTCFD提言に賛同し、2021年度より国内CVS事業から開示を開始。



TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース)

24年9月
開示

自然関連の依存と影響及びリスクと機会の分析・開示

ネイチャーポジティブ(2030年までに生物多様性の損失を止め、回復させる世界目標)を推進する取り組みの一環



Taskforce on Nature-related
Financial Disclosures

TNFD開示にあわせ、自然資本に関するグループの姿勢を方針として開示

1. 自然との関わりを把握するよう努めます
2. 自然の恵みを大切にし、自然に与えるネガティブな影響を回避・最小化します
3. 自然環境や生物多様性の回復・再生に貢献します
4. イノベーションを取り入れ、あらゆるステークホルダーと自然に貢献する価値を共創します
5. 透明性の高い、信頼される誠実な開示・報告に努めます

目次

1 当グループのサステナビリティ推進体制

2 環境戦略

- 「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗
- 4つのテーマの具体的な取り組み
- TNFDの開示

3 社会戦略及びコミュニケーション戦略

- 人権尊重の取り組み
- 社会貢献活動の進捗と課題、今後の方向性
- グローバル化するコミュニケーション戦略

4 サステナビリティの課題と対応

社会戦略：人権尊重の取り組み（自社・サプライチェーン）

自社だけでなく、サプライチェーンを含む人権尊重の取り組みを推進

		2021 人権方針策定 体制構築	2022 人権リスク分析	2023 外部への情報開示	2024 事業会社へ拡大
自社 サプライチェーン	自社	◆グループ人権方針策定 (21年10月7日発表) ◆人権推進プロジェクト外発足	◆人権への負の影響の特定 負の影響の定量化 ➡人権リスクマップ作成	◆人権HP開示内容更新 ◆共通人権eラーニング実施	◆事業会社別人権デュー ディリジェンスを推進 ◆人権ガイダンス作成
	サプライチェーン	◆取引先向けオンライン 説明会・セミナーの開始 ◆CSR監査実施（2012～） グループオリジナル商品製造委託先工場への実地監査によるモニタリングを実施	◆人権への負の影響の特定 事業会社サプライチェーンにおける負の影響の特定・リスクの定量化 ➡人権リスクマップ作成	◆社内外への周知活動 事業会社仕入担当への周知、取引先向け説明会におけるケーススタディを通じた教育の実施	◆お取引先サステナブル 行動指針の改定（予定） 人権DDプロセスで特定されたグローバルな人権リスクを追加
		海外CSR監査における重大不適合疑いが確認された工場数の推移			
		82件	44件	18件	—

社会戦略：グリーバンス(救済)システムの確立

社内外の人権課題を軽減・是正する取り組みを推進



「グループ共通従業員ヘルプライン」「お取引先専用ヘルプライン」「監査役ホットライン」の設置

- 人権課題の防止と早期発見、早期是正、再発防止を目的に匿名で連絡できる窓口を設置
- 確認された人権課題については速やかに修正・是正を行い、再発防止に努めます



海外のサプライチェーンにおける人権侵害等に対する通報受付を開始

- 海外工場における人権侵害等についても、現地から相談できる窓口を設置
- 現状の対応言語は4言語（英語・タイ語・ポルトガル語・日本語）



外国人労働者の受入れ時の労働条件、生活環境の改善を目指すプラットフォームに参画

- 様々なステークホルダーが賛同、参加する「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム（JP-MIRAI）」に参画
- JP-MIRAIアシストを通じ、日本における外国人労働者への相談・救済サービスを提供

社会戦略：現状の社会貢献活動

ボランティア活動



7 Care's Day (SEI)

次世代育成の支援



職場体験ツアー (IY,SEJ,7FS)

エシカルな消費



フードドライブ (グループ各社)

環境保全活動



セブンの森 (SEJ + SE記念財団)

募金活動



店頭の募金箱(グループ各社)

災害復興支援



東日本大震災復興支援 (グループ各社)

グローバルな視点で、SDGsの達成に向けた取り組みを展開しています。

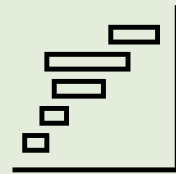
非財務領域の開示とお客様への情報発信の強化

【サステナビリティ情報の開示】

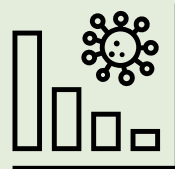


国内外のサステナビリティ活動を、有価証券報告書、経営レポート、サステナビリティデータブック、WEBサイト、等、多彩な開示媒体で発信（日・英）

【将来的に求められる開示に向けて】



27年3月期から義務化する案が出ている、ISSB・SSBJなどの非財務領域の開示の早期化・深化への対応



サプライチェーン全体の環境データ可視化を目指すデータプラットフォームの構築

【従業員への情報共有】



eラーニングの実施や、サステナビリティに特化した従業員向けアプリの開発。社内全体会議での気候変動リスクの発信等

【店舗や商品を通じたお客様への啓発活動】

お客様や生活者に一番近い存在として、地球環境や社会課題に関する情報発信にも注力

店舗POP・レジCM・イベント



様々なメディア



目次

1 当グループのサステナビリティ推進体制

2 環境戦略

- 「GREEN CHALLENGE 2050」の進捗
- 4つのテーマの具体的な取り組み
- TNFDの開示

3 社会戦略及びコミュニケーション戦略

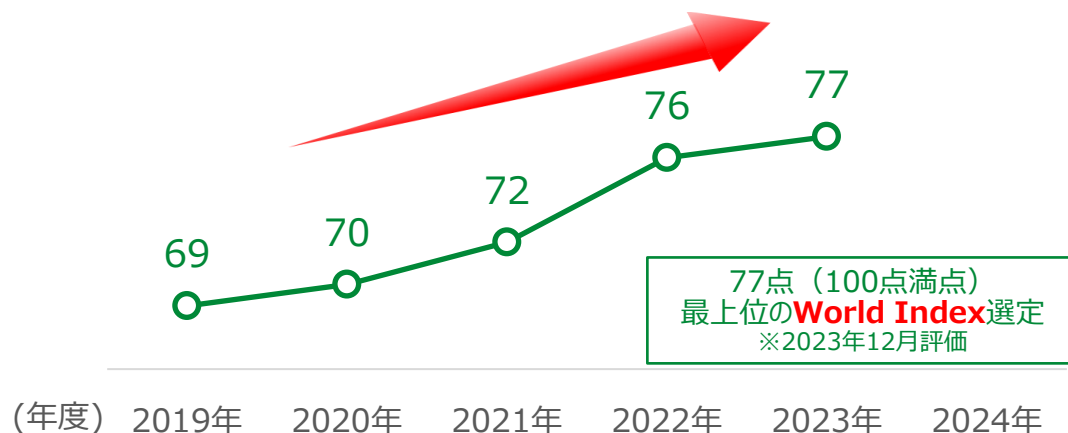
- 人権尊重の取り組み
- 社会貢献活動の進捗と課題、今後の方向性
- グローバル化するコミュニケーション戦略

4 サステナビリティの課題と対応

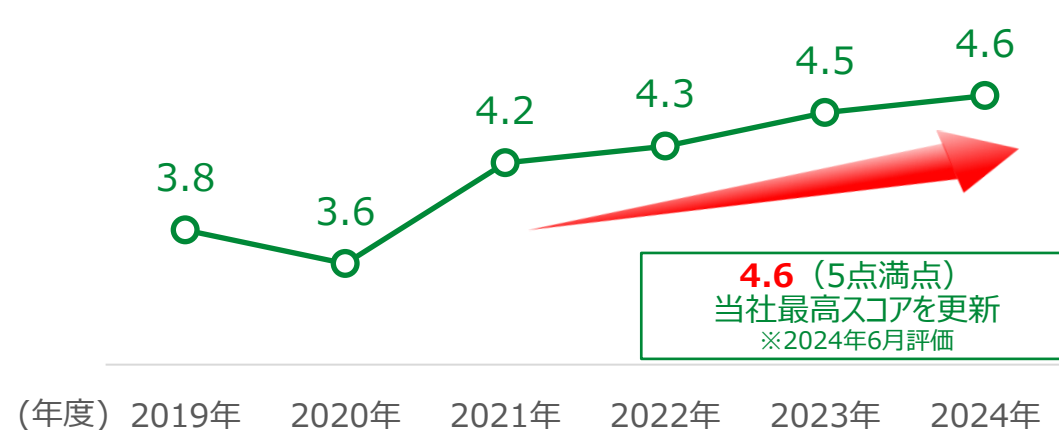
サステナビリティの課題と対応：3つの戦略によりESGスコアは順調に推移

ESG評価機関のスコア推移

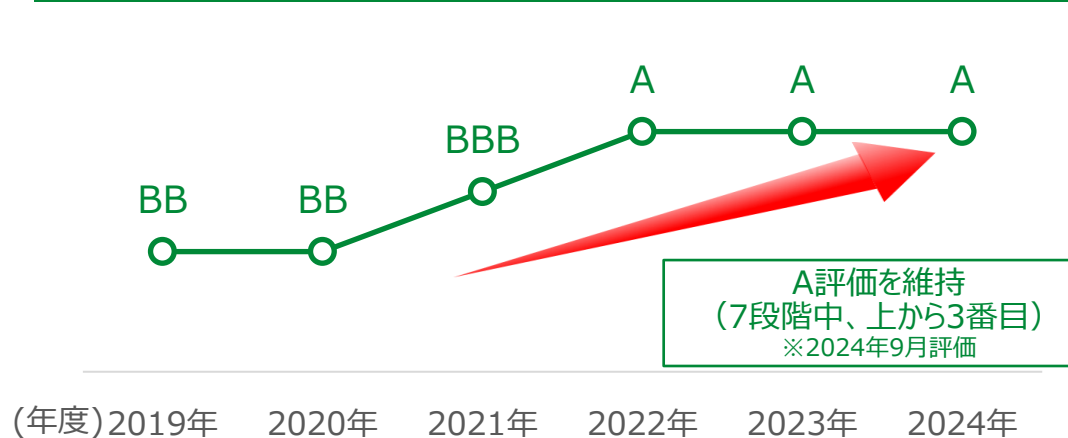
DJSI



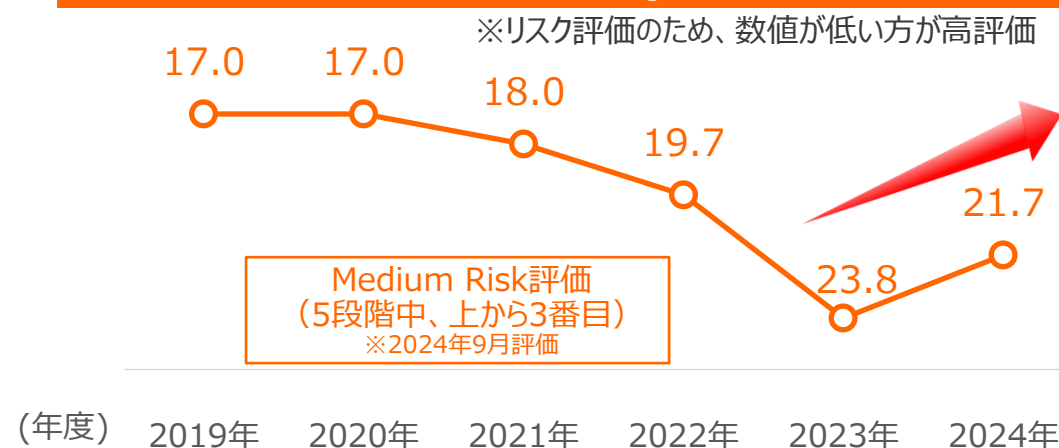
FTSE



MSCI



Sustainalytics



サステナビリティの課題と対応：よりProactiveな取り組みへ

	主な課題	対応策
全体/推進体制	・経営や事業の中にサステナビリティが包摂されている「サステナビリティ実装企業」として、企業価値向上につながる対応の更なる深化 ・グローバルなサステナビリティ推進体制の構築	・地球環境や社会の課題解決に向けた新たな事業の展開等、企業の持続的成長と社会課題解決を同時実現する取り組み ・SEI、7INのサステナビリティ部門との連携強化 ・グローバル基準や法規制への適切な対応と、誠実な情報開示
環境	・GREEN CHALLENGE 2050の着実な推進とグローバルで求められる目標の前倒し/開示への対応 ・環境分野における当社単独での取り組みの限界	・新電力会社、調達に関する自主基準の策定、持続可能な農業等の推進 ・環境データの見える化とグループ内外への共有/TCFD・TNFD対応の拡充 ・官庁や非競争領域での競合他社等との連携強化/規制への働きかけ
社会	・人権デュー・ディリジェンスや、サプライチェーンマネジメントのより一層の強化 ・社会貢献活動のグローバル化	・人権デュー・ディリジェンスがグループ内で恒常的に行われる仕組みの構築 ・従業員のボランティアマインドの醸成、各国・各地域における活動だけでなく世界共通で取り組む仕組みの構築
コミュニケーション	・情報開示の高度化、企業評価の向上 ・小売業ならではのお客様への啓発、行動変容・社会実装	・各部署や事業会社との連携強化とDX活用等による開示基準への対応 ・店舗や商品・サービスを通じた啓発、イベント施策の継続的取り組み・進化



当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。
この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。
したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。